

10/15
D
TK

高浜原発にMOX燃料

関電が申請書提出

再稼働時に使用

関西電力は十四日、高浜原発3、4号機（高浜町）の再稼働時に、使用済み核燃料を再処理してつくるウラン・プルトニウム混合酸化物（MOX）燃料を使用する計画を表明した。東日本大震災以降、新たに使用するかは未定としてきたが、「核燃料サイクルの推進につながる」として、MOX燃料を一般の原発で使用する「プルサーマル発電」を進める。〓〓面参照

同日、高浜4号機にMOX燃料を使用したための検査の申請書を原子力規制委員会に提出した。既に二〇一〇年十一月から一二年一月に受検済みの3号機では一度使用した八体を含め、計二十四体を使う。4号機では四体を使用する。通常の燃料を含め、ともに百五十七

MOX燃料は核分裂を抑える制御棒の利きが悪くなることが指摘されているが、関電は「燃料の溶融点（溶け出す温度）に対する余裕を確保している」と安全性を主張した。現時点で使用済みMOX燃料は原子力安全協定に基づき、一九九九年六月に県と高浜町から事前了解を得た。3号機は一〇年十二月から定期検査に入る一二年二月まで発電実績がある。新規制基準に基づく安全審査ではプルサーマル発電を

MOX燃料 原発の使用済み核燃料から取り出したプルトニウムをウランと混ぜた燃料。高速増殖炉型炉「もんじゅ」（敦賀市）がトラプル続きのため、MOX燃料を一般の原発で扱う「プルサーマル発電」が核燃料サイクルの中心に位置付けられた。二〇〇九年の九州電力玄海原発3号機（佐賀県）を皮切りに、関西電力高浜原発3号機が4例目。新規制基準に適合した四国電力伊方原発3号機（愛媛県）でも計画されている。

町民に戸惑い

「専門家ではないので分からない」

「専門家ではないので分からない」。女性も「通常の燃料とどこが違うのか分からない」と。関西電力が高浜原発3、4号機にMOX燃料を装荷すると判断に迷う町民が相次いでいる。高浜町民からは戸惑う反応。一九九九年、同原発3号機に使用予定だったMOX燃料のデバッグさん発見を受け、安全性への懸念が高まった。同町音海望むものの「MOX燃料の名前は知っているが、詳しいことは」。六十代の民宿経営の長瀬に出馬した経歴を持つ。児

同町小和田で老人ホームなどを営む山本勝則さん（八十二）は「町民の間で、MOX燃料については議論しているのを見たことはない」と理解が広まっていない現状を示唆する。（平井孝明）

原子力機構監督在り方を聴取へ

規制委が文科省から日本原子力研究開発機構の高速増殖炉「もんじゅ」で安全管理の不手際が相次いでいる問題で、原子力規制委員会は十四日、所管する文部科学省の幹部から、原子力機構に対する監督の在り方について意見聴取する方針を明らかにした。田中俊一委員長はこの日の会合で「文科省にはこれまで二度にわたって文書で対応を求めているが、われわれが納得できる対応になっていない」と批判した。二十一日の定例会合で同省研究開発局長から聴取する方向で調整している。十月末には原子力機構の児玉敏雄理事長からも聴取する予定。もんじゅをめぐることは、多数の機器点検漏れが発覚し、規制委は二〇一三年五月、原子力機構に事実上の運転禁止命令を出した。